

(再開 午後 1時 00分)

**議長（萩原由一）**

休憩前に引き続き会議を開きます。

6番 勝山 卓 議員。

(「はい、議長。6番。」の声あり)

(6番 勝山 卓 議員 登壇)

**1. 観光行政について**

**6番 勝山 卓 議員**

それでは、議長から発言をされましたので、通告に基づきまして3点の質問に入らせていただきます。よろしくお願いいたします。

まず、最初の質問ですが、観光行政についてお伺いをしたいと思います。

村は、平成29年3月公共施設等総合管理計画を策定し、今議会でその令和4年3月改訂版を示されました。

この計画によりますと、2022年から2035年までの14年間で施設の長寿命化・更新対策に必要な経費は全体で66億285万9,000円、うち、ホテルパノラマランド木島平等、保養6施設で9億8,190万円、リフトなどの観光21施設で、10年間で15億2,546万円を必要としている試算が出ております。

観光施設などにあつては、民間譲渡を基本に検討を進めるとし、施政方針では、今年度観光施設の今後の方針を決定するとしております。改めてですね、この見解をお聞きしたいと思います。

また、公共性と企業性を併せ持つ「第三セクター木島平観光株式会社」は、村の観光行政を担ってきたわけでありましたが、会社の経営状況は、村の公式ウェブサイトと広報で公表されておりますが、平成30年度燃料高騰によって800万円ほどの赤字、そして、平成元年度は、台風19号、寡雪、それから新型コロナウイルスの感染拡大で9,660万円ほどの赤字。令和2年度は、新型コロナウイルス感染の拡大長期化ということで1,166万円の赤字となっております。

この間、行政は誘客対策など、新型コロナウイルス支援対策事業を実施されてきたわけですが、客足が戻らなく激減し経営は大打撃を受け、大変厳しい状況になっているわけであります。

結果この間、観光株式会社は他行から3,000万円の長期借入と、村は観光株式会社へ長期貸付金4,000万円と他行から短期借入金2,000万円の損失補償を行って、村の長期貸付金残高が8,000万円となっているという状況であります。

また、3期連続赤字が続き、令和2年度の決算を見ますと、繰越欠損金が8,540万円ほどとなって資本が減少し、債務超過で2,260万円ほどになっているという内容であります。

さらに、令和3年度、今期においても、新型コロナウイルスの第6派の拡大によって、2月10日開催の「第三セクター木島平観光株式会社に関する特別委員会」で決算予想が、約8,500万円の赤字となるという報告があったわけであります。

今後の運転資金不足が懸念されるとして、観光事業の民営化が検討されていることから、今議会で観光株式会社への運営補助金5,000万円の補正予算が可決されたところであります。

コロナ禍などの影響で、会社の存続が危ぶまれる深刻な経営難の状態にあるというふうに思います。村はどうしていく考えか、お伺いをしたいと思います。

**議長（萩原由一）**

日墓村長。

(村長「日墓正博」登壇)

**村長（日墓正博）**

それでは、勝山議員の「観光行政について」というご質問ですが、このご質問につきまして

は、これまでも答弁をさせていただきました民営化を図りながら観光の維持を図っていききたいということでもあります。

その内容については、先ほども申し上げましたが、改めて担当課長に答弁をさせます。

### 議長（萩原由一）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

### 産業課長（湯本寿男）

それでは、勝山議員のご質問に答弁いたします。

今までの答弁の中でもお話ししていますとおり、村が今後このまま観光施設を維持し、第三セクター方式で運営していくことは、関わる環境の変化が著しい昨今の状況から、経費的に見ても限界があると考えております。

行政報告の中でも村長から申し上げましたが、こうした状況下でも素早く柔軟に対応でき、専門的な経営戦略を立てられる民間企業に施設運営をお願いするのが時代に合った方法と考えています。

ただ、現状の施設の状況や運営の中で、民営化を進めるためには、村の負担をある程度想定しながら進めていく必要があると想定していますので、修繕費や施設管理に係る経費、民間企業の負担軽減を行政としてどの程度見ていくのか、皆様にご理解いただける範囲でお願いしていききたいと考えています。

いずれにしても、早急に事務を進め、議会にも相談しながら、村の観光行政がより良いものに、また、発展性のあるものにできるようにしていきたいと考えております。

### 議長（萩原由一）

勝山 卓 議員。

### 再質問

#### 6番 勝山 卓 議員

それでは、再質問をお願いしたいと思いますが、今議会の3月3日に、村有する観光施設の民営化方針の案が示されたわけでありましたが、村の資産である対象施設、先ほど前段、話が出ておりますが、ホテルパノラマランド木島平、スキー場、やまびこの丘公園、馬曲温泉公園の施設などと土地を譲渡するというところでありますが、観光株式会社についても、話をはっきり出ていますが、売却するのかわかりませんが、村の施設・土地の資産譲渡と一緒に交渉をしていくということだというふうに思いますが、その辺の確認もお願いをしたいと思っております。

それで、木島平株式会社が、先ほど言いましたように債務超過状況にあって、一緒に交渉していくということは大変厳しい状況になるんじゃないかなと思うわけでありますが、その辺について、もしダメであれば、どうするのか、指定管理会社として残すのか、そうは言っても先ほどありましたように、資金援助といいますか、そういった形の中ではもう村をやらないということでもありますので、資金ショートするのは目に見えているという状況でございます。そのようなことでその辺についてのお話をお願いしたいと思います。

それから、村は、譲渡先と観光振興にどういうふうに関わっていくのかお伺いをしたいと思います。

それから、国庫補助事業で導入施設の補助金の扱いであります。有料である場合については、補助金返還があるのかわかりませんが、その辺を確認したいと思います。

それと、民営化を進めるに当たり、村の財政負担の話をお聞きしておりますと、相当あるような感じを伺うわけでありますが、その辺、どの程度になるのか、お分かりでしたらお願いしたいと思います。

以上です。

**議長（萩原由一）**

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

**産業課長（湯本寿男）**

それでは、勝山の議員の再質問についてお答えをいたします。

「施設を譲渡していくということは、どういうことか」というお話であると思いますが、村として施設を建物も含めた施設を管理していくのは、やはり将来的に負担軽減を図っていく必要があるということと、やはり観光事業でありますので、時代に合ったやり方、また、小回りの利く経営で運営していただくのがいいという判断をいたしまして、やはり土地も含めた資産の譲渡をしていった方が運営側にとっては、やはりやりやすい環境ができるのだということで判断をしております。

ただ、施設を資産を譲渡していく中で、民間企業との交渉の中でどういった形で、村が負担が必要なのかどうかというのを交渉の中でお話をさせていただければと思っております。

また、「民営化ダメならどうするか」というお話でございます。

これは江田議員のご質問でもお答えをしていますとおり、その時点でどういう方式が可能なのか、無理だとすれば施設・事業の中止ですとか、停止も考えていく必要があると思っております。

3点目、「国庫補助事業の導入施設の補助金の扱い」というお話でございますけれども、これも前の議員のご質問でもお話をしましたが、国の定めで地域活性化を図る観点で、10年経過後には無償の処分であれば補助金返還は要しないという、これは国の承認を得てという話になりますけれども、認められるという話になっております。

最後4点目でございますけれども、現状、木島平観光の運営状況ですとか、収益状況というのは、コロナの状況もありまして非常に厳しい状況が続いております。今回、運営補助金という形をお願いをしてご了承いただきましたが、それも活用しながら、事業継続を行いながら、民営化について早急に事務を進めていきたいと考えておりますので、ご理解をお願いいたします。

**議長（萩原由一）**

勝山 卓 議員。

**再々質問**

**6番 勝山 卓 議員**

再々質問をお願いしたいと思いますが、ちょっと聞きそびれちゃったんですが、補助事業の関係で、「有償の場合はどうなのか」というふうに聞いたと思うんですけど、無償の場合は今言われた回答だと思いますが、その辺どうなのか、お願いをしたいと思います。

それから、村主導で設立された木島平観光株式会社であります。村は、資本金の80.8%の出資者であるわけでありまして。今回、民営化を検討されているわけでありまして、村の経営健全化に対するその経営責任、また手放すというようなことではあります、それ決まっているわけじゃないか。設立を主導してきた道義的な責任というものについては、どういうふうにお考えなのか、お聞きをしたいと思います。

**議長（萩原由一）**

ここで暫時休憩します。

（休憩 午後 1時 14分）

（再開 午後 1時 15分）

## 議長（萩原由一）

休憩前に引き続き会議を開きます。

日墓村長。

（村長「日墓正博」登壇）

## 村長（日墓正博）

それでは、再々質問にお答えいたします。

現状の施設で第三セクター方式での事業継続は難しいという判断をし、民営化を示したものでありますが、ここまで至る経過では村の主要な活性化施設として、予算・事業についてご理解いただきながら継続してきたということについては、村民の皆様にも感謝申し上げたいと思います。

財政健全化に対する責任ということではありますが、観光を中心とした事業については、2016年の経済センサス調査でも示されておりますが、宿泊飲食サービス業は、企業数では最多の50社、そしてまた従業者数も最多の242人となっており、今、村での主な雇用産業となっております。民営化方針の判断が遅れたことによるところはご指摘のとおり部分もあると思いますが、村の主要産業として雇用と産業の維持を進めてきたことには、ご理解をいただきたいと考えております。

## 議長（萩原由一）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

## 産業課長（湯本寿男）

それでは、私から「財産の有償で処分した場合にはどうなるか」というお話でございますが、現在、補助金関係で想定される施設とすればやまびこの丘公園になります。

ただ、やまびこの丘公園については建設後10年以上経過しておりまして、有償の場合については補助金の償却分を除いた売却額等を計算しまして、補助金の返還になる可能性はあると思っております。

以上です。

## 議長（萩原由一）

勝山 卓 議員。

## 2. 農業振興について

### 6番 勝山 卓 議員

それでは次の質問にお願いしたいと思いますが、農業振興対策についてお伺いをしたいと思います。

人口減少と高齢化の進行や消費動向の変化に伴って、米の国内消費動向については、年間需要が10万トンベースで減り続けるという政権が出されているわけでありまして。市場は長期縮小傾向にあって、加えてコロナ禍の影響によって業務用米を中心に一部が大きく減少したため、民間在庫量が適正水準を大きく上回ったと、主食用米の需給状況を大きく緩和し、概算金が大きく引き下げられた経過があるわけでありまして。

状況は、深刻なわけでありまして。米価の下落は一時的なものとは思えず、農業再生には所得向上が大前提です。高収益の園芸品目などの導入を進め、地域農業を担う経営体の確保、育成が喫緊の課題だと思っております。

そこで、次の点についてお伺いをしたいと思います。

まず1点目でありまして、水田農業の将来像についてどのようにお考えなのか、お伺いをしたいと思います。

2点目ですが、12月議会に報告があった水稻作付け動向の産地交付金に地域振興作物の面積を見ま

すと、令和2年度比較でいきますと、花卉花木で0.6ヘクタール、果実で0.7ヘクタール増です。野菜では0.9ヘクタール減少していると、全体では0.3ヘクタール増えてるわけですが、高収益化園芸品目の導入を、今後どのように進めていかれるのかお伺いをしたいと思います。

それから3点目です。国は農薬科学肥料の削減や有機農法など、環境負荷低減の取組を支援し、環境保全型農業は推進をすすめているわけですが、堆肥センターは2026年、令和8年以降廃止を計画がされています。この点で「有機の里づくり」をどのように進めていくのか、お伺いをしたいと思います。

4点目です。村のブランド力を上げていくためには、今後どのような取組を考えられているのか、お伺いをしたいと思います。

以上です。

## 議長（萩原由一）

日碁村長。

（村長「日碁正博」登壇）

## 村長（日碁正博）

それでは「農業振興について」のご質問であります。

高収益園芸作物の導入については、長年の地域の課題であることご指摘のとおりであります。これまでも村では、様々な作物を導入されてきましたが、高収益品目作物の定着には至っていないというのも実情であります。

気候などの地域条件の要因があるにせよ、米だけではない品目の導入は今後も重要であり、JAなど関係機関とも研究を進めていく必要があると考えております。

このような中、農家とJAのご尽力により白ねぎの栽培面積も増加し、「みゆきネギ」として産地化に期待しているところであります。

近年、多様な経営形態となっている中、行政として行う支援としては、農家の栽培形態に合った作物の導入支援や、農地などの環境整備に対する支援が重要と考えております。

関係機関と研究しながら、また農家の皆さんにおいても、是非ご意見をいただければと思います。議員の中にもJA出身の方もいらっしゃいますので、いろんな方面からまたご指導・アドバイスをいただければと思っております。その他の具体的な質問については産業課長に答弁をさせます。

## 議長（萩原由一）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

## 産業課長（湯本寿男）

それでは、村長の答弁に補足をしてお答えをいたします。

まず1点目、「水田農業の将来像はどのように考えているか」というご質問でありますけれども、米価下落については、多様な食生活の広がりや人口減少等による需給バランスの変化による恒常的なものと、ご指摘のとおり認識をしております。

木島平村は、良質米産地として長年取り組むと同時に、米価安定のための主食用米の適正生産をお願いしてきました。

適地適作といわれるように、この地域では米農家の担い手の経営を確立しておりますので、適正生産をお願いしながら、村長も申し上げたように、米以外の作目でも複合的に、また、畑作農家等の育成にも取り組んでいく必要があると考えております。

2点目、「高収益園芸品目の導入については」というご質問であります。

村長も申し上げましたが、多様な経営形態がありますので、個々の農家の意向や要望、ご意見を伺いながら、関係機関と連携し、導入支援や環境整備を中心に支援をしていきたいと考えております。

3点目、「有機の里づくりの進め方」であります。家畜排せつ物法の制定を機に、村では堆肥センターを建設し、以来「有機の里づくり」として地域循環型農業の実践に取り組んで来ましたが、この間、畑地はもちろんです。水田でも多くのほ場に堆肥センターの堆肥を活用されてきました。

しかしながら、堆肥センターは密閉型という施設の特徴から、劣化診断により著しい老朽化が確認されているところ。これについては、既にご報告をさせていただいたとおりであります。

ご指摘のとおり、国では持続可能な農業をめざし、環境に優しい農業施策を展開しております。村では、今まで堆肥センターを活用した「有機の里づくり」を中心に進めてまいりましたが、地域循環型農業の実践も含め、多様な取組に対応できる支援を検討することも重要と考えております。

堆肥センターのあり方とともに、これからの「有機の里づくり」についても検討していきたいと考えます。

4点目、「ブランド力を上げるために今後どのような取組を考えるか」というご質問ですが、農産物のブランド化の取組としては、良質米産地として米を中心とした取組を村では進めてきました。

米コンクールの出品による客観的な評価による価値化や、酒蔵と連携した酒米の推進など、米産地の確立のための取組を進め、米については一定のブランド化は図られてきたと感じています。

今後、持続可能な農業の確立をめざす中、「美味しい〇〇の産地」から「安心・安全な農産物の生産地」としてのブランド化も重要となってくると思います。また、加工商品としてブランド化も図れることも重要ですので、特産品開発でも補助金の活用や支援なども取り組んでいきたいと考えています。

新年度予算では、加工や農産物の活用面でアドバイザーも計画しており、多面的なブランド化を進めていければと考えております。

## 議長（萩原由一）

勝山 卓 議員。

## 再質問

### 6番 勝山 卓 議員

それでは再質問をお願いしたいと思いますが、令和3年度米につきましては、先ほど申しあげましたように、概算金が相当下落をしたということでもあります。

稲作経営の安定化を図るためには、主食用米の需要に応じた適正生産が重要であるということですが、本年度3%の作付け削減が必要な水準だと報道されているわけですが、令和4年度産米の適正生産の配分面積はどんな状況にあるか、お伺いをしたいと思います。

それから2点目ですが、「有機の里」＝「堆肥センター」ではないわけですが、堆肥販売量は農業公社の数字を見ますと、令和元年ですが1,734トン、令和2年度が1,537トン、農地還元をされているわけがあります。

前段話がありましたように、現堆肥センターは密閉型だということでありまして、水道光熱費、中身は分かりませんが、年間1,100万円ほどの昨年ですが、経費がかかっているということでもあります。場所を変えるなど、維持費削減ができるのではないかなと思うわけですが、堆肥センターの検討も必要ではないかなとは思いますが、それはどうなのかをお願いをしたいと思います。

それから3点目ですが、有利販売を進めていくためには、ブランド力を高めていくことが重要であります。そのためには、栽培技術の向上だとか消費宣伝活動も重要であります。是非この辺も含めて取り組んでもらいたいと思いますが、どうでしょうか。

以上、3点お願いしたいと思います。

## 議長（萩原由一）

湯本産業課長。

(産業課長「湯本寿男」登壇)

### 産業課長（湯本寿男）

それでは、再質問にお答えをいたします。

「令和4年度の水田の生産計画はどのような状況か」ということでございます。

米の生産数量目安として、昨年と比べて11.7ヘクタール少ない面積で、現在各農家の皆さんにお願いをしている状況であります。これについては昨年同様の加工用米と今年度は飼料用米も含めた中で、畑作への展開や主食用米からの転換をお願いをしているところであります。今各農家へ取りまとめをしているところですが、価格安定のための転換等をお願いしていきたいと思っております。

2点目、有機の里づくりの関係で「堆肥センターの検討」ということでありますけれども、「場所を変えて検討も」というお話でございました。

現在、村の方針としては、現施設での継続は難しいというお話をさせていただく中で、原料搬入農家やこれから利用農家も含めた意見をお伺いしながら、その辺は検討していきたいと考えております。

3点目、「ブランド力の話」でございますが、勝山議員おっしゃるとおり、当然PRですとか、販売方法の確立ですとか、窓口の確保というところも重要になってくると思いますので、例えば、通信販売の窓口ですとか、直売所での窓口といったところも充実をさせていただきながら、農家の皆さんにも情報提供していきながら推進をしていきたいと考えております。

### 議長（萩原由一）

勝山 卓 議員。

### 3. 「ファームス木島平」の運営改善について

#### 6番 勝山 卓 議員

それでは3点目最後の質問になりますが、ファームス木島平の運営改善についてお伺いをしたいと思います。

昨年の11月議会全員協議会で、当施設の運営改善方針の説明がありました。令和5年度オープンに向けてスケジュールが示されたわけですが、令和4年度当初予算では、マルシェホールの屋根改修事業の設計費が計上されております。

以下の点についてお伺いをしたいと思います。

1点目ですが、直売所の事業強化のために「食彩市場たる川」との統合を前提としているということですが、合意が得られているのかどうか、お伺いをしたいと思います。

それから前段話もありましたが、施設運営者の公募されたのかどうか。

3点目、既に計画変更がされておりますが、スケジュールも含めて今後どういう計画で進める考えか、お聞かせいただきたいと思っております。

それから4点目、直売所強化ということであつたわけですが、直売所事業の運営強化には、直売所の出品者や品目の確保が魅力アップに繋がると思います。どのような取組を考えられておられるのか、お聞きをしたいと思います。

以上です。

### 議長（萩原由一）

日碁村長。

(村長「日碁正博」登壇)

### 村長（日碁正博）

それでは「ファーム木島平の運営改善計画について」ということですが、ファーム木島平のご質問については、財源の課題もあり江田議員に答弁したとおりですが、今後も状況に応じて相談説明をさせていただきながら、進めてまいりたいと考えております。

ご質問の個々の内容につきましては産業企画室長に答弁をさせます。

#### 議長（萩原由一）

湯本産業企画室長。

（産業企画室長「湯本寿男」登壇）

#### 産業企画室長（湯本寿男）

それでは「ファーム木島平の件について」答弁を申し上げます。

まず1点目、「たる川との合意を得られたのか」ということですが、江田議員の中でお話をしておりますが、村としての基本的な考え方について関係者等へ説明を行っているところです。その内容や合意の時期などについては、相手方にあることでもありますので、今後ということになっております。

2点目、「運営者の公募はしたのか」ということですが、これも江田議員の回答のとおりこれからでございます。

3点目、「今後のスケジュール」という点でございますけれども、令和4年度の施設運営改善関連の予算については屋根改修の設計費のみを計上しております。

議会ははじめ関係者との調整や財源の確保など、同時進行での検討や手続きを進めていく必要があるため、関連課題の解決や社会状況の変化等も考慮して柔軟に対応していきたいと考えております。

4点目、「直売所事業の運営強化に向けて」ということですが、ご指摘のとおり、出荷者や品目の確保が直売所の魅力アップに繋がると考えております。

一方、全国的な直売所事業の課題として、出荷者の高齢化や新規出荷者の減少、またコロナウイルスの拡大による来訪者の減少などが挙げられ、各種支援策の検討が必要となってきております。

本村においても、特色ある作物の振興や特産品開発補助金の活用などを通じて、農作物の生産や加工品の開発などをして支援していきたいと思っております。

また、包括連携協定を締結した食品加工会社によります新たな加工品の生産・販売などを通じて、出荷品目の増加などに繋げていきたいと考えております。

#### 議長（萩原由一）

勝山 卓 議員。

#### 再質問

#### 6番 勝山 卓 議員

それでは再質問をお願いしたいと思いますが、提案のあった運営改善方針では、本事業の実施に当たっては先ほど言いましたように、「食彩市場たる川」との統合が前提としていたわけでありまして。

事業を進めていくには、まず同意を得て初めてスタートするものだというふうに思いますが、今回既に関連予算が計上されております。その点ですね、どう言っているのかちょっとわかりませんが、見通しが立ったのか、方針が変わったのか、その辺についてお伺いをしたいと思います。

#### 議長（萩原由一）

湯本産業企画室長。

（産業企画室長「湯本寿男」登壇）

### **産業企画室長（湯本寿男）**

直売所事業の前提というお話をさせていただいておりますけれども、調整については今調整中、今後決定をしていくという中で、スケジュールについては少しずれてきているというような状況でございます。

方針については、道の駅としての地域活性化施設という方針は変わっておらず、具体的にどのような施設にしていくのかというのも、今後の検討課題ではありますので、それについても皆様のご意見を伺いながら具体的に進めていきたいと考えております。

### **議長（萩原由一）**

以上で、勝山 卓 議員の質問は終わります。

（終了 午後 1時 37分）

### **議長（萩原由一）**

以上で、本日の日程は終了しました。

本日はこれで散会します。

ご苦勞様でした。

（散会 午後 1時 37分）